

総合演習
卒業論文

子どもの『絵本』について

19-1014 北原 美帆
19-1028 立元 梢

《目次》

0. 選んだ理由
1. 概要
2. 絵本と歴史的経緯
3. 絵本と現象
4. 絵本の種類
5. 絵本の読み聞かせ
6. 絵本を読んでもらう楽しさ
7. 絵本を選ぶ時のポイント
8. 子どもの好きな絵本紹介
9. まとめ

0. 選んだ理由について

子どもの頃から身近にある「絵本」。
当たり前前に存在しているからこそ分からないことがたくさんあるのではないかと思います。これから保育士になるにあたり、「絵本」は毎日扱う物です。子どもたちに教える立場の私たちが、「絵本」についての特徴や効果について知らないで、子どもたちにただ読むだけ、というのはまずいのではないかと思います、私たちは、この「絵本」をテーマにし、様々な点について調べることにしました。

それに加えて、子どもたちの好きな絵本について調べ、実際に保育士や母親になった時の参考にしようと思いました。

1. 概要

絵本を読む子供

絵本（えほん）とは、その主たる内容が絵で描かれている書籍のことである。幼児や児童向けの内容のものが多いが、大人が読んでも読み応えのあるものや大人対象の絵本もある。

絵本は、それ自体は絵画（イラストレーション）を主体とした書籍のうち、物語などテーマを設けて文章を付与し、これを読ませるものである。しかし幼児向けのものでは、幼児自身はまだ十分に文字が読めないため、大人や年長者が物語を読み聞かせつつ、絵を眺めさせるという形態が一般的である。これによって言葉とイメージ（視覚から得た情景）を関連付けさせ、言葉の意味を学習する一種の家庭教育的な効果も期待されるが、より日常的な場では、単に娯楽という側面が強い。また児童向けのものでは、絵本の文章は情景を示す物語ではあるが、絵のほうから得られる副次的な情報が、文章の説明を補足する性質も見られる。

絵図の内容は、これと同時に掲載される文章に基づくものであるが、絵本自体は物語のみには限定されない。後述するように「大人向けの通俗的なもの」も見出される。

2. 絵本と歴史的経緯

絵本は、その初期において識字率の低い大衆に内容を理解させるという性質も強かったと考えられる。こと宗教の布教において説話や抽象的概念を絵図で示すことは世界各地にその類型がみられ、神話や伝説なども絵図入りの書物の形で示されたものも数多い。

日本における絵本は、平安時代の絵巻物を起源とし、室町時代の奈良絵本、江戸時代の草双紙と歴史をたどることができる。また、絵手本のことを指して絵本と呼んだ例もある。特に江戸時代の赤本が、子供向けに作られた絵本といえる。また、教育的な要素の強いものとしては中村惕斎による『訓蒙図彙』が挙げられる。明治時代になって欧米の印刷技術や絵本が入り、現在のような絵本の形態になってきた。絵本は、絵だけのものもあるが、基本的には絵と言葉によるコラボレーションであり、ページをめくるといふ行為が重視される。

日本では、一般に幼児向けの教育的なものを意図して製作されたものと捉えられているが、戦前からの絵雑誌である「コドモノクニ」「キンダーブック」の幼稚園での普及による影響があるためであり、戦前でも「講談社の絵本」など児童以上向けの絵本は存在していた。

ヨーロッパにおいては、18世紀にイギリスで最初の児童書出版者ニューベリーによる出版物を経て、19世紀半ばに絵と言葉を融合した現代絵本の形態が完成した。ヨーロッパでは、幼児以上の年齢層をも対象とし、純粋な娯楽を目的としたものもあるが、場合によっては多少エロティックな内容を含んだ「俗悪な」ものも存在する。ヨーロッパでは日本ほど漫画が普及しておらず、いわば、日本の江戸時代における春画的なポジションも絵本が担っている。

最古の教育絵本は、宗教改革の時代にモラビアのボヘミア地方出身の教育者ヨハン・アモス・コメニウスが作ったとされる『世界図絵』で、今日の学習絵本の元祖といわれている。

3. 絵本と現象

現代では、最初から大人をメインターゲットとした、芸術性の高い絵本も制作されている。幼児や児童向けでも、大人が読むとその荒唐無稽さから極めて超現実的な印象を受ける絵本というのも存在するが、その一方では物語に託された深い洞察や示唆に大人が関心を示すケースというのも見られ、世代を超えて愛される絵本の中には、こういった良質な「作品」も見出される。

絵本作家という職業もあり、こと良質な作品を発表し続けているそれらが、一流のストーリーテラーであったり、あるいは心の機微に対する深い哲学を持ち作品に反映させていたり、また子供の感覚で見慣れた事物にも新鮮に感じさせる視点が存在していることをあらわしているという作品も見られる。

この中では、子供から大人まで巻き込んでブームを巻き起こすケースも見られ、『100万回生きたねこ』のように深い感動を読者に与えた作品もあれば、『ウォーリーをさがせ!』のように遊びを提供するゲームブック的な性質で愛好者を増やした作品も見られる。

シリーズ化された作品では『ナインチェ・プラウス』（日本では「ミッフィー」ないし「うさこちゃん」という名前で見られるウサギ）や『アンパンマン』のように、様々なメディアに展開されているものもあり、単に絵本という枠から飛び出し世界中で愛されているキャラクターもみられる。逆に既存のキャラクターを絵本化するケースもあり、アニメなどでも子供向け作品の中に、絵本化され提供されている作品も見出される。

4. 絵本の種類

① 飛び出す絵本

飛び出す絵本（とびだすえほん）は、本を開くと幾何的な折り畳み構造物と、これに描かれた絵が飛び出すようになっている絵本のことである。仕掛け絵本（しかけえほん）とも。

こういった折り畳み構造物による「飛び出し」は、バースデーカードやクリスマスカードにも応用したものが見られる。

飛び出す絵本は、各ページに折り畳まれた紙などから成る薄い構造物が挟まれており、ページを開くことでそれらが立体的にせり出してくる仕掛けをもった絵本である。各ページは立体の構造物を支える必要から板紙ないし厚紙が利用されるが、メッセージカードの類では頻繁に開くことを前提としないため、画用紙などのより薄く軽い紙も使われる。

挟まれている構造物は蛇腹など折り畳まれた状態で各ページに挟まれているが、これが「ページを開く」という動作で左右に引っ張られる過程で、これを開いた者の前にせり出してくるのである。また飛び出す絵本の類型としては、動く絵本などページの一部にあるつまみを操作することでページの一部が引っ張り出せたり、または袋状になった部分に空いた穴から下の絵がのぞいて見える範囲が移動するなどの工夫が凝らされているものも見られる。

こういった絵本に選ばれる題材としては、不思議の国のアリスやシンデレラなど有名な話が多い。

日本での飛び出す絵本の刊行点数が多い出版社に大日本絵画がある。

飛び出す絵本の製作では、絵本作家が一人で作り上げる場合もあるが、こういった仕掛けを考案する専門のデザイナーもいることが大日本絵画のウェブサイトなどからうかがえる。こうして作られた原稿は、一般の書籍と同様に印刷される訳だが、その後に仕掛け部分をプレス加工で打ち抜き、これを手作業の流れ作業で各ページに接着し組み立てするなど、独特の工程を経て製品として完成する。なお、こういった組み立て工程では各ページ毎の担当者がおり、ここではベルトコンベアは利用されていない模様である。各ページに取り付ける部品も手作業で組み立てられている。

代表作品はらぺこあおむし

② 布製絵本

布製絵本（ぬのせいえほん）、布絵本（ぬのえほん）は、その名の通り、通常は紙で作られる絵本が、布で作られたものである。

通常の絵本と違い、大量の文字を印刷することは不可能であるため、「読む」ことには向いてはいない。しかしながら、例えば特定の文字を縫いこんだり、マジックテープではがして直に触らせるなど、立体的な活用をすることができる。その意味では「読む」よりも「目で認識させる」「触感で認識させる」などといった知育玩具的な要素が強い。読み聞かせる代わりに自分で遊ぶことができるので、絵本を与えるよりも早い年齢から与えることができる。

また、裁縫の工夫次第で幼児を喜ばせる仕掛け（例えば、家の絵の窓を開けると出てくる人物や動物を変えることができる、仕掛けの中に隠した乗り物を引っ張り出したりしまったりできる、絵の中の風車や水車を回すことができるなど）を作ることができることから、オリジナリティを出しやすく、家庭科系のクラブ活動等で取り組むケースも見られるようである。

③ かたぬき絵本

かたぬき絵本（かたぬきえほん・型抜き絵本）とは、ページの一部に穴を開け、ページをめくった時の意外な変化を楽しむ、一種のしかけ絵本のこと。厚紙を素材に、印刷と型抜きが施されることが多い。

古くは、イタリアの絵本作家、アーティストのブルーノ・ムナーリの実験的な絵本作品群がよく知られている。絵本作家ロイス・エラートの"**COLOR FARM**"もコンセプトチュアルな知育絵本として知られている。日本の作品としては、いしかわこうじの「どうぶついろいろかくれんぼ」・「のりものいろいろかくれんぼ」かたぬきえほんシリーズ、駒形克己の"**LITTLE EYES**"シリーズなどが有名である。

④ てれび絵本

1990年から「母と子のテレビ絵本」としてスタートし、主に幼稚園・小学生低学年をターゲットに、子供たちから愛される童話や絵本作品を著名人の朗読で紹介している。当初は前半10分間がお話、後半5分間は歌のコーナーとなっていたが、2003年度からリニューアルし、1作品につき5分間の作品を放送している。ただし朝は週によって過去に放送された10分1作品になっている場合もある。金曜日に必ず「えほん寄席」を放送する都合上、本来1週間放送を前提とした5回完結のエピソードが翌週に跨るケースも生じている。

5. 絵本の読み聞かせ

読み聞かせ（よみきかせ）とは、主に乳幼児期から小学校年齢の子供に対して、話者がともに絵本などを見ながら音読する行為である。

1896年に巖谷小波が京都の小学校で行った口演童話（こうえんどうわ）がルーツであると言われている。

乳幼児期の情操教育・文字の習得などに効果があるとされる。年齢が上がっても、読書への導入としても有効であり、集中して話を聞く訓練にもなりうる。

小学校で読み聞かせの時間を取っている教諭も少なくない。

① 読み聞かせの効用

- ・ 聞く力を育てる
- ・ ことばからイメージする力を育てる
- ・ 本に対する興味を育てる
- ・ 読み手と聞き手の交流
- ・ 読み聞かせの場と相手

② 読み聞かせの時間

- ・ 昼間
- ・ 朝の会
- ・ 昼休み
- ・ 終わりの会
- ・ 就寝前（家庭・保育園）

③ 読み聞かせる場合の注意

- ・ 大げさに読まず、淡々と読み、読み手の過度の感情移入は、聞き手の想像の余地を狭めるので注意する。

④ 本の選択

- ・ 聞き手の興味に合わせて選択する
- ・ 幼児の場合、同じ本を繰り返し読むようせがまれば、これに応じる。
- ・ 0歳児から中学生まで、本の選択さえあっていれば読み聞かせを喜ぶ。

6. 絵本を読んでもらう楽しさ

子どもは絵本を読んでもらうのがとても好きです。
それは次のような楽しいことがあるからです。

1. 読み手のやさしい声、肌、ぬくもりに触れる安心感、心地よさ。
2. 一冊の絵本を読み合い、イメージ、感動、楽しさを共有できる嬉しさ。
3. 正しい言葉、豊かな言葉、ユーモアのある言葉を自然に覚える。
4. わからない言葉や意味を、読み手からその場でわかりやすく伝えてもらえる。
5. すばらしい絵、豊かな絵が言葉のもつイメージを膨らませてくれる。
6. 聞く事の大切さを知ると共に、人の話をきちんと聞く習慣が自然に育つ。

だから字を覚え自分で読めるようになって、やはりお母さん（お父さん、祖父母、保育士…）に読んでもらいたいようです。

7. 絵本を選ぶ時のポイント

誕生してからは、赤ちゃんがふれあう様々な環境〔人、音、匂い、自然等〕から少しずつ外界の様子を知り、声を聞き、模倣しながら言葉を獲得していきます。言葉を聞き話すことができるようになると、生活の知恵、豊かな情緒、想像力、社会性…へと発展していきます。そういった成長の過程の中で、赤ちゃんや子どもにとっての絵本はとても大切な役割をもっています。育児の力強い味方というところです。その時の子どもの年齢、理解力、興味にぴったり合った「絵本」に出会えることで、楽しい発見、感動を繰り返し、健やかな成長へとつながっていくのです。

絵本は子どもの年齢や理解力にぴったり合った、いろいろなジャンルを選びましょう。その中で子どもは大好きな絵本、大切な絵本にめぐりあえるのです。子どもの好きなテレビや漫画のキャラクターだけにとらわれないようにしましょう。ひとつのイメージに固まって、豊かな想像力が育ちにくくなります。

子どもが大好きな絵本を何度も読んでほしいときは、どうぞ繰り返し読んであげてください。その子の想像の世界が広がっているということです。お母さんやお父さんが子どものころ感動した絵本、楽しかった絵本、大好きだった絵本も選んでみるのも絵本を通してお母さんやお父さんの思い出、子どもへの願いや愛情が自然に伝わっていくので良いことです。赤ちゃんはお母さんのお腹にいる時から、自然にお母さんの声を聞いて大きくなっていきます。

7. 子どもの好きな絵本

1. いないないばあ

著者：松谷 みよ子 イラスト： 瀬川 康男



2. はらぺこあおむし

著者：エリック=カール 翻訳：もり ひさし



3. おつきさまこんばんは

著者：林 明子



4. じゃあじゃあびりびり
著者：まつい のりこ



5. ねないこだれだ
著者：せな けいこ

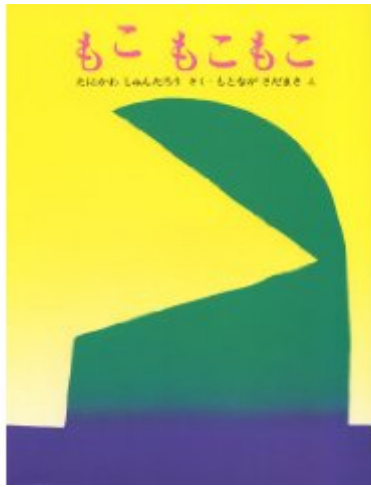


6. きんぎょがにげた
著者：五味 太郎



7. もこもこもこ

著者：谷川 俊太郎 イラスト：元永 定正



8. おおきなかぶ

著者：A.トルストイ イラスト：佐藤 忠良 翻訳：内田 莉沙子



9. しろくまちゃんのほっとけーき

著者：わかやま けん



10. がたんごとんがたんごとん

著者：安西 水丸



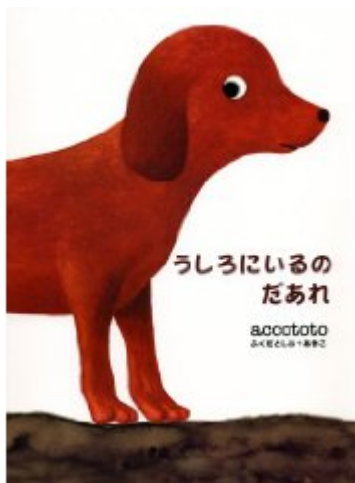
11. たまごのあかちゃん

著者：神沢 利子 イラスト：柳生 弦一郎



12. うしろにいるのだあれ

著者：accototo



13. はたらくくるま

出演： KIDS DVD



14. うずらちゃんのかくれんぼ

著者：きもと ももこ



9. まとめ

このテーマを調べてみて、今まで身近にあった「絵本」が、とても奥深いものだということがよく分かりました。「絵本」の持つ様々な特徴や性質などが良くわかり、「絵本」の素晴らしさを改めて実感することができました。そして、子どもの成長に絵本は欠かせないものだと思います。

これから、保育者や母親になるにあたって、調べた結果を参考にし、子どもたちの成長をサポートして毎日、楽しく健康に過ごせるように配慮したいと思います。

今回、加えて調べた、子どもが好きな絵本については、子どもたちに読み聞かせてあげたいです。また、今回調べた以外にも「絵本」はたくさんあるので、もっと様々なジャンルを調べて、レパートリーを増やしたいです。